

(第三種郵便物認可)

### 実技講演通じ技能向上を図る

めざせオリンピック  
トップアスリート

養成事業を行う

主催、市体協主管。

2020年東京オリ  
ンピック・パラリンピック

「めざせオリンピック  
トップアスリート」をテ  
ーマにした指導力・コン  
ディショニング向上養成  
事業が13、14の両日、市  
立総合体育館といわき明  
星大で開かれた。市教委  
係者の競技力向上を目的



チューブを使ったストレッチを実践する受講者

に実施。国内著名の指導  
者が本市を訪れ、指導者  
や競技者に、スポーツ障  
害などに関する講演、障  
害予防やコンディショニ  
ング向上の実技指導を行  
った。

13日は、同体育館で市  
内のスポーツ少年団、地  
区体育協会、中・高体連  
など加盟団体から約10

0人が参加し、福島医科  
大整形外科学講座の大歳

憲一医学博士の講演、「ス  
ポーツによる外傷と傷害

医療現場での対応から  
復帰にむけて」を聴講

した。

続いて、日本オリンピ  
ック委員会の医科学強化

スタッフ経験のある大高  
茂鍼灸(しんぎゅう)師、  
福島労災病院中央リハビ  
リテーションの四家卓也

理学療法士が、けが予防  
やパフォーマンスの向上

につながる柔軟性などを  
伸ばすストレッチ、トレ

ニングの実技指導を行  
った。

14日は、同大で2講演  
が開かれた。1部では、

大塚製薬の協力で、水分  
補給や栄養管理につい

て、家庭でできる方法な  
どが講演された。

2部では、日本体育大

保健医療学部教授の武藤

芳照同大総合研究所長が  
講師を務め、「2020



講演を行う武藤教授

年東京オリンピック・パ  
ラリンピックを見据えて  
「たど事故予防」と題して

講話。小泉信三元慶應義  
塾長が提唱したスポーツ  
が与える3つの宝から、  
「練習練習の体験を持つ  
こと、フェアプレーの精  
神、友」の大切さや、現  
代の子どもたちの身体の  
現状などを説いた。